

少林寺拳法の資格制度と WSKO 講習会の ガイドライン

Guidelines for Shorinji Kempo Qualification System and WSKO Study Sessions

2021 年 5 月 28 日

2022 年 3 月 18 日修正改訂版

監 修 SHORINJI KEMPO UNITY

発 行 少林寺拳法世界連合 (WSKO)

May 28, 2021

Revised version March 18, 2022

Supervised by SHORINJI KEMPO UNITY

Issued by World Shorinji Kempo Organization (WSKO)

目 次

A 少林寺拳法の資格制度について

I はじめに	3
II 昇格考試について	
1. 概論	3
2. 備考	4
3. 受験条件一覧	5
4. 受験条件の詳細	6
III 考試員・審判員資格について	
1. 役割	8
2. 分類	8
3. 詳細	8
4. 特別昇格考試の考試員	10
5. 特別措置	10

B WSKO 講習会について

1. 講習会を開催する役割分担	11
2. 講習日程を構成する目安	11
3. 派遣する指導員	11
4. 費用負担	11
5. 主管が WSKO へ納入する受講費	12
6. 主管が参加者から徴収することが出来る参加費	12
7. 講習会開催申請	12

Table of Contents

A. The Shorinji Kempo Qualification System

I. Introduction	13
II. Grading Examination	
1. Overview	13
2. Remarks	14
3. List of Eligibility Requirements	15
4. Exam Requirement Details	16
III. Examiner and Judge Qualifications	
1. Role	18
2. Category	18
3. Details	18
4. Special Grading Examiners	20
5. Special Measures	20

B. WSKO Study Session

1. Division of Roles in Organizing a Study Session	21
2. Guidelines for Structuring the Schedule of a Study Session	21
3. Instructors to be Dispatched	21
4. Cost Burden	21
5. Payment of Participation Fee to WSKO by the Host	22
6. Participation Fees the Host Can Collect from Participants	22
7. Application to Hold a Study Session	22

A 少林寺拳法の資格制度について

I はじめに

- ・少林寺拳法初代師家宗道臣（開祖。以下、開祖と言う）は、人間の身心改造による平和的手段によって社会変革を目指すため少林寺拳法を創始しました。その少林寺拳法は、教えと技法、それらを活用する教育システムから成り立っています。教えの学習と技法修練の課程は科目表に定められ、それに沿って修行しつつ、日常生活の中で教えの実践を繰り返し、段階的成長を目指すことが少林寺拳法の教育システムの特徴です。
- ・教育システムの中心には、段階ごとに与えられる階級としての武階と法階があり、その資格を審査し判定するために昇格考試があります。その他、修行の成果を発表する機会として大会もあります。昇格考試や大会での審査によって、後進の拳士の成長を促し、自身も成長させる価値ある仕組みとして考試員・審判員の資格があります。武階と法階の階級制度、そして考試員・審判員資格は、教育システムの中心的制度であり、世界統一の基準で成り立っています。
- ・少林寺拳法の教えと技法と教育システムは、少林寺拳法師家によって開祖の志と共に承継されています。少林寺拳法師家とは、少林寺拳法グループの各団体をグループ代表として統括する者であり、その活動を正しく導くことが役割です。
- ・少林寺拳法の教育システムは、少林寺拳法グループの一員で、WSKO の関係団体である SHORINJI KEMPO UNITY（WSKO 会長である師家が代表理事を務める。以下、UNITY と言う）が所有、管理しています。また、世界中のどの国においても、科目表に準じて少林寺拳法の指導、修練がなされます。そして科目表に定められた課程を一定の段階まで修熟した会員には、支部長、監督または連盟が承認のもと定められた義務と手続きを完了すれば、昇格考試を受験する機会が与えられます。そして考試に合格した者を UNITY へ上申し、それを師家が認めれば、新しい階級が許可され、師家より許可状（もしくは合格証書）が発行されます。
- ・少林寺拳法で言う“許可”とは、試験に合格することも含めた本人の地道な努力と社会や少林寺拳法の組織への貢献が認められた結果として、師家から与えられることを意味します。

II 昇格考試について

1. 概論

- ・昇格考試では、教え・技法の修養度や行動・態度を含めて総合的な審査が行われます。
- ・昇格考試を受験する資格の有無を判断するための「受験条件」は、世界統一で定められた必要最低限度の基準です。したがって、受験資格の有無は、組織への貢献度・活動実績・修行態度等を含めた総合的な観点で判断されます。受験条件だけを満たすことで、受験する権利を得たかのように思うことは間違った理解です。

- ・特別昇格考試の受験可否については、支部長および監督の修行実績確認に加え、受験者が正会員に所属する場合は連盟が受験に同意していることが必要です。その後、UNITY に設置されている資格審査会が受験希望者の資格を総合的に審査したうえで、UNITY 代表理事（師家）が受験の可否を決定します。
- ・武階とは、少林寺拳法の教えと技法の修得度を表します。法階とは、金剛禅の修行法に基づく修養度と教えの実践度を表します。
- ・少林寺拳法は、人づくりのための「行」であり、日本発祥の武道でもあります。WSKO は、少林寺拳法を武道として修行することで、目指すべき人間へとになっていくことを期待しています。なお、WSKO の支部で、宗教教育としての金剛禅の修行に基づく修養と教えの実践について指導することはありませんが、自学自修による実績を認められれば、法階を受験することもできます。

2. 備考

- ・以下のようなことは、各国連盟や支部で実施できません。
 - －独自の級を設けて付与すること。
 - －WSKO への入会手続きをする前に、昇格考試を行うこと。
 - －昇級試験または昇段試験後、その手続きを完了する前に次の資格の試験を行うこと。
- ・8 級～1 級までの試験を昇級考試、初段～三段までの試験を昇段考試、四段及び正拳士以上の試験を特別昇格考試、これらを総じて昇格考試と呼称します。
- ・昇格考試は、UNITY が管轄するものです。連盟や支部の事務手続きは、UNITY より昇格考試全般の業務を委託された WSKO 事務局が受付けます。（受験申込、結果上申手続、受験通知発送、合格証や許可状の発送、費用請求等）
- ・正会員（国連盟）は、三段までの昇格考試を実施することができます。正会員ではない国の準会員は、二段までの昇格考試を実施することができます。
- ・特別昇格考試は、UNITY が定めた考試日（日本）、または WSKO が認めた講習会等に併せて実施されます。
- ・下記の場合を除き、原則、自国外での昇格考試受験は認めません。
 - －WSKO 本部（日本）での受験
 - －地域全体を網羅した講習会での受験（例：ヨーロッパ地区、アジア地区等）
- ・正拳士までの法階受験には飛び級が認められています。（例：准拳士初段→二段→中拳士三段）
大拳士以上の法階では、飛び級はできません。

3. 受験条件一覧 (発行：SHORINJI KEMPO UNITY)

受験資格	支部長以外の 受験	年齢条件	現武階允可後の 修行期間	現武階允可後の 対象講習会
8～7級	可	9才以下：8級から開始 10才以上：6級から開始	4ヶ月以上	＊ ＊
6～4級	可		2ヶ月以上（少年は4ヶ月以上）	＊ ＊
3～1級	可	9才以上	〃	＊ ＊
初段	可	11才以上	3ヶ月以上	＊ ＊
准拳士	可	＊ ＊	対象講習会受講条件満了者は 初段と同時に允可される	1回以上
二段	可	13才以上	1年以上	＊ ＊
少拳士	可	＊ ＊	対象講習会受講条件満了者は 二段と同時に允可される	1回以上
三段	可	17才以上	1年以上	＊ ＊
中拳士	可	＊ ＊	対象講習会受講条件満了者は 三段と同時に允可される	1回以上
四段	可	20才以上	4年以上 ※原則、四段と同時に允可される	2回以上
正拳士				
五段	可	24才以上	6年以上	6回以上
大拳士	可	＊ ＊	3年以上	2回以上
六段	可	35才以上	大拳士取得者：10年以上	6回以上
			大拳士未取得者：15年以上	8回以上
准範士	可	＊ ＊	6年以上	4回以上
七段	不可	45才以上	准範士取得者：12年以上	6回以上
			准範士未取得者：17年以上	8回以上
正範士	不可	＊ ＊	6年以上	5回以上

4. 受験条件の詳細

(1) 七段、正範士

支部長、または WSKO 正会員（連盟）より委任されて支部長を指導する立場にある者のみ受験できます。受験資格審査に際しては、普及活動・組織貢献の実績が厳しく審査されます。

- ・3名以上の後継指導者を育成していること。

※状況により、支部長勤続10年以上または次代の支部長に交代後5年以内の元支部長等のことも考慮する。

(2) 六段以上（支部長のみ）

UNITY 資格審査会による受験資格審査の結果に基づき、受験資格を有する支部長に対し、連盟を通じて、または直接受験通知を行います。

通知を受け取った受験希望者は、受験願書を WSKO 事務局へ提出し、受験申し込みを行ってください。

(3) 四段以上

受験希望者は、受験願書に必要事項を記入して、WSKO 事務局へ提出してください。

願書が受理されたら、資格審査会で審査され、連盟あるいは支部長を通じて、受験の可否を通知します。

(4) 年齢による武階の開始級

- ・13才以上：一般扱いとなります。6級から受験開始してください。色帯は、6級～4級は緑帯、3級～1級は茶帯。
- ・12才以下：少年扱いとなります。受験時に9才以下は8級から受験開始してください。受験時に10才以上は、6級から受験開始してください。
- ・10才以上であっても、本人の希望あるいは拳士の身心の成長の状況等の事情がある場合は、8級から受験することも可能です。
- ・9才以下で8級を取得し、10才を過ぎて次の受験をするときは6級から受験が可能です。

(5) 受験に必要な対象講習会の受講回数の計算

対象講習会とは、武階・法階共に、WSKO 講習会または WSKO が認定する講習会を指し示します。

(2021年度より)

- ・現在の資格許可後、次の資格の考試日前日迄に、定められた回数以上の講習会受講が必要です。
- ・受験条件である受講回数の計算は、一年度間に複数の講習会を受講した場合、2回までを数えます。
例 自国で開催された講習会 1回 + 外国で開催された講習会 1回 = 2回
 自国で開催された講習会 2回 + 外国で開催された講習会 2回 = 2回
 外国で開催された講習会 2回 = 2回
 外国で開催された講習会 3回 = 2回
- ・受験者の自国で開催された講習会は、一年度間に複数の講習会を受講した場合、原則、1回のみを数えます。
- ・受験資格審査において、長年にわたって WSKO 講習会または WSKO が認定する講習会を受講していないなど、極端に偏った受講履歴がある場合、受験が認められないことがあります。

・法階（大拳士以上）受験に必要な受講回数について

①2012 年度以前 WSKO 講習会または WSKO が認めた講習会の受講履歴を計算します。

②2013 年度～2019 年度 UNITY 講習会の受講履歴を計算します。なお、UNITY 法階講座を WSKO 講習会／国際講習会と併せて受講された場合も受講履歴を計算します。（WSKO 講習会／国際講習会 **のみ**の受講では法階受験に必要な受講履歴として計算されません）

③2021 年度以降 WSKO 講習会または WSKO が認定する講習会の受講履歴を計算します。

(6) 受験料

受験料の納入先は、少林寺拳法の資格を管轄する SHORINJI KEMPO UNITY です。

昇格考試受験料は、A～E の WSKO 会費分類が適用されます。受験料の請求は、5 月または 11 月に行います。

(7) 科目表

一般科目表（13 才以上対象）

特徴：1 級を受験するまでの間に基礎となる科目を重点的に配列し、初段の履修科目は少なく設定することで、初段受験を級拳士の総復習として位置づけています。応用技、変化技等は二段以上で履修します。五段科目で羅漢圧法の一部を加えていますが（主に正中線上の急所を攻める圧法）、特昇の実技審査で圧法は出題しません。

少年科目表（12才以下対象）

特徴：成長期の身体に悪影響を及ぼす可能性のある逆技は割愛しています。

(8) 特別昇格考試の法階受験方法（大拳士、准範士、正範士）

- ・日本で実施される特昇における口述審査は、原則、オンラインで実施します。
- ・その場合、用いる言語が WSKO 公用語（日本語、英語）以外であれば、通訳に掛かる費用は受験者負担となります。
- ・宿題は、従来通り、事前に提出していただきます。

(9) 特別昇格考試受験時の言語（宿題、筆記試験、技術試験、口述試験）

- ・原則、WSKO 公用語に準じます。（日本語または英語）
- ・WSKO 講習会等でも、原則、WSKO 公用語に準じますが、公用語以外の場合、講習会の開催主管国が通訳協力してください。

(10) 法階（准拳士～正拳士）の許可を希望しない場合

該当する武階受験時に申し出ておく必要があります。

(11) 技術審査用紙

昇級、昇段の技術審査用紙が必要な方は、WSKO 事務局まで請求してください。（英語または日本語のみ）

Ⅲ 考試員・審判員資格について

1. 役割

修行実績を認め、階級を許可するのは師家ですが、その過程にある昇格考試において審査をするのが考試員です。また、少林寺拳法の大会において、修行によって修得した拳技を正しく評価するのが審判員です。したがって、重い役割を担う考試員と審判員の資格認定を受けるには、以下の要件が定められています。

2. 分類

考試員・審判員資格（以下、考試員資格と言う）は、1級・2級で分類されています。

(1) 1級考試員・審判員

所定の考試員審判員講習を受講した六段以上の現役会員。三段以下の審査が出来ます。

(2) 2級考試員・審判員

所定の考試員審判員講習を受講した五段もしくは四段位を有する現役会員。初段以下の審査が出来ます。

3. 詳細

(1) 有効範囲

考試員資格は、有資格者が所属する連盟、または支部のある国内に限って有効です。WSKOの許可がない限り、所属する国以外で昇格考試を審査することはできません。

(2) 資格の有効期間

有効期間は、一律に4年間です。期間途中に認定を受けた者も、一律に有効期間を満了する。

- ・現在：2018年度～2021年度期（2018年4月1日～2022年3月31日）
- ・次期：2022年度～2025年度期（2022年4月1日～2026年3月31日）

[注意] 資格有効期間中に昇段しても、上位の考試員資格は、自動的に認定されません。

昇格後、改めて考試員審判員講習または所定の手続きを実施した者に、上位の考試員資格が認定されます。

- ・例：五段の2級考試員が有効期間中に六段に昇格し、改めて考試員研修会を受講するか、所定の手続きをした場合、1級考試員資格が認定される。

(3) 資格認定に必要な費用（2022年度～2025年度）

（単位：円）

費目	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	Eランク
審査料	2,000	1,200	400	200	60
資格認定料：1級	11,000	6,600	2,200	1,100	330
資格認定料：2級	8,800	5,280	1,760	880	264
袖章代	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
費用合計：1級	14,100	8,900	3,700	2,400	1,490
費用合計：2級	11,900	7,580	3,260	2,180	1,424

(4) 期中に資格認定を受ける場合の認定料

残存期間を年数で案分し支払う。残存期間中の月数は全て繰り上げ、1年と計算します。

- ・計算例：2023年5月1日に1級考試員の認定

有効期間 残3年（残期間2年11カ月を繰り上げる）

認定料 $(11,000 \text{ 円} \div 4) \times 3 = 8,250 \text{ 円}$

(5) 費用請求

審査合格後、随時、請求書を発行します。

- ・正会員：SHORINJI KEMPO UNITY から連盟へ請求します。各支部の明細書を添付します。
- ・準会員：SHORINJI KEMPO UNITY から支部へ請求します。

(6) 考試員袖章

UNITY への費用払いを完了した方には、考試員袖章（下表）を発送します。

	1 級考試員 (六段以上)
	2 級考試員 (五段)
	2 級考試員 (四段、三段支部長)

(7) 認定方法（更新、新規取得） ※下記 a または b で実施する

- a WSKO 講習会で実施される考試員審判員講習を受講し、資格の認定を受ける。
- b または、UNITY が指定する書類審査の手続きをもって資格の認定を受ける。

「b」の要領について

「考試員・審判員 講習会資料（要点編）」と少林寺拳法読本を参照の上、以下の要領に沿ってレポートを作成し、別紙申請書を添えて、WSKO 事務局へ提出してください。

手続きについては、期毎に通達します。

認定後、請求書を発行するので、所定の費用を納入してください。

入金確認後、随時考試員袖章を支部長へ発送します。

レポート内容の確認要領

正会員は連盟で、準会員国は支部長が、レポートの内容が考試員審判員として相応しいものであることを確認してください。不適切と思われるときは、申請者本人へ指導していただき、修正また再提出等の措置を実施してください。支部長本人のレポートは、ご自身でよく吟味してください。

- ・正会員：各連盟内で、レポート内容と申請書の内容を確認後、すべての書類を取りまとめて、WSKO 事務局へ提出してください。各支部からの提出は不可。

- ・準会員国：支部長がレポート内容と申請書の内容を確認後、すべての書類を取りまとめて、WSKO事務局へ提出してください。

レポート様式（今期、参考）

- ・記述方法：不問（ワープロ、自書等）
- ・言語：円滑な審査のため、下記言語のいずれかで提出してください。
日本語、英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語
- ・字数：各テーマ、日本語は1,200字以上、その他言語は600語以上
- ・テーマ：更新者、新規取得者共にA・Bについて記述する。
- ・注意：レポートの内容によっては、考試員審判員資格が認定されない場合があります。また、期毎にテーマが変わることもありますので、詳しくは通達を参照してください。

レポートテーマ

- ・適宜、WSKOからの通達でお知らせします。

4. 特別昇格考試の考試員

SHORINJI KEMPO UNITY が任命している国際考試員またはナショナル考試員の中から考試員が編成されます。日本以外で行われる特別昇格考試は、都度、UNITY が考試員を任命します。

これらの任命にあたっては自薦・他薦共に受け付けていません。

5. 特別措置

(1) 三段の支部長は、考試員・審判員資格の認定を受けることによって、初段迄の昇段考試ができる2級考試員として認定される特別措置が適用されます。

(2) 四段支部長への特別措置及び正会員（各国連盟）の五段支部長への特別措置は、下表を参照してください。

〔注意〕この特別措置の有効期間は2023年3月31日迄です。

		考試員有資格者が実施できる試験		
		初段	二段	三段
1	2級考試員資格を取得した、三段支部長	可	不可	不可
2	2級考試員資格を取得した、四段拳士	可	不可	不可
3	2級考試員資格を取得した、四段支部長・（準会員国の）五段支部長	可	可	不可
4	2級考試員資格を取得した、五段拳士	可	不可	不可
5	2級考試員資格を取得した、正会員に所属する五段支部長	可	可	可
6	1級考試員資格を取得した、準会員国の六段以上支部長・拳士	可	可	不可
7	1級考試員資格を取得した、正会員に所属する六段以上支部長・拳士	可	可	可

B WSKO 講習会について

これまで（2014 年度以降）、WSKO 講習会（WSKO 主催）と UNITY 講習会（UNITY 主催）を区別して行ってきました。2021 年度より、講習会の種類を WSKO 講習会のみとします。

2021 年度より、武階・法階の受験条件にある「対象講習会または法階講座」は、「WSKO 講習会」の受講回数を数えます。

※過去の UNITY 講習会の受講履歴も、従来通り、武階または法階受験にあたって計算します。

1. 講習会を開催する役割分担

- ・主催 原則、WSKO
- ・主管 正会員、または開催を担当する準会員

2. 講習日程を構成する目安

(1) 昇格考試を行う場合の例：原則、3 日間

- ・初日 学科試験、実技試験
口述試験
- ・2 日目、3 日目
鎮魂行
実技
学科講義（少林寺拳法の教え）40 分×1～2 コマ 程度
WSKO 講義（知財管理、組織運営他） 40 分×1 コマ 程度
※考試員審判員講習は必要に応じて実施

(2) 昇格考試または特昇を行わない場合の例：最低、2 日間

- ・上記(1)より「初日」を削除した日程構成。

3. 派遣する指導員

指導員は、WSKO が決定し派遣します。主管が指名することはできません。

[注意] WSKO 指導員が参加または指導する講習会の全てが、WSKO 講習会になるわけではありません。

4. 費用負担

(1) 主管の負担

指導員の渡航費（エコノミー運賃）・海外旅行保険・宿泊費・食費、
※宿泊費は、講習会初日の前 2 泊分、講習会最終日の翌日泊まで負担必要。
※食費は、宿泊費負担範囲内の負担必要。
講習会運営に必要な経費（会場・備品費等）

(2) WSKO の負担

派遣指導員の国内交通費、支度金

5. 主管が WSKO へ納入する受講費

WSKO は、主管から提出された受講者名簿を基に受講履歴を登録し、主管へ受講者の受講費を請求します。

- (1) 主管が正会員の場合：WSKO から連盟へ請求します。各支部の明細書を添付します。
- (2) 主管が準会員の場合：WSKO から支部へ請求します。

分類	1 名あたり
A ランク国の拳士	2,000 円
B ランク国の拳士	1,200 円
C ランク国の拳士	400 円
D ランク国の拳士	200 円
E ランク国の拳士	80 円

6. 主管が参加者から徴収することが出来る参加費

主管は、下記を勘案し、参加者から参加費を徴収することが出来ます

- (1) 主管が負担すべき費用

指導員の渡航費（エコノミー運賃）・海外旅行保険・宿泊費・食費
講習会運営に必要な経費（会場・備品費等）

- (2) WSKO へ納入する受講費

- (3) 講習会期間中の昼食や飲料水等、懇親会費（別途徴収も可）を含めることも可能です。

[注意] 講習会終了後、正会員及び準会員国共に、連盟内または支部長間で速やかに収支決算報告を行ってください。

7. 講習会開催申請

- (1) 対象講習会としての申請（指導員派遣要請を含む）する場合は、前年度の 10 月末までに WSKO 会長へ許可申請してください。

- (2) 会費ランク D または E の地域については、WSKO が主催者となり、指導員派遣について計画することもあります。

以 上

A. The Shorinji Kempo Qualification System

I. Introduction

- The first Shike of Shorinji Kempo was Doshin So (hereinafter Kaiso), who founded this martial art in an effort to revolutionize society through peaceful means involving the transformation of body and mind. Shorinji Kempo consists of teachings and techniques as well as an education system that employs these. A feature of the Shorinji Kempo educational system is that it aims for gradual growth, in which kenshi follow a curriculum of studying the teachings and practicing techniques then put what they have learned into practice in everyday life.
- At the heart of this educational system is a ranking system of Bukai (“martial rank”) and Hokai (“philosophical rank”) given at each level, which have grading examinations to judge whether kenshi is qualified for that level. Taikai are also hosted as a chance to present the results of training. Judgement at these grading examinations and taikai encourages growth among the next generation of kenshi, and as such there is an examiner and judge certification system that serves as a valuable tool for fostering growth among judges as well. The Bukai and Hokai rank system as well as the examiner and judge certification are a central part of the educational system and use standards that are consistent across the globe.
- The teachings, techniques, and educational system of Shorinji Kempo have been passed down by Shorinji Kempo Shike, along with the original intent of Kaiso. A Shorinji Kempo Shike is someone who oversees and represents the Shorinji Kempo Group, and it is their role to provide proper guidance for the Group’s activities.
- The Shorinji Kempo educational system is owned and managed by SHORINJI KEMPO UNITY, a member of the Shorinji Kempo Group and affiliate of WSKO (referred to as UNITY, where Shike and president of WSKO works as representative director). Countries all across the world use the same curriculum to teach and practice Shorinji Kempo. Members who have mastered the courses set in the curriculum to a certain extent are then given the opportunity to take the grading examination once they have completed set procedures and duties after approval from the branch master, coach, or federation. When those who pass the examination are reported to UNITY and receive approval from Shike, they will be granted a new rank and issued a Dan certificate/Inkajo (or Kyu certificate).
- “Approval” in Shorinji Kempo means recognition by Shike of the kenshi’s contributions to society and to the Shorinji Kempo organization as a result of the kenshi’s effort, including effort toward passing the examination.

II. Grading Examination

1. Overview

- In the grading examination, examinees are judged comprehensively on their degree of mastery over teachings and techniques, as well as on their behavior and attitude.
- “Eligibility Requirements” are minimum standards consistent across the globe that have been set to determine whether a kenshi is eligible to take the grading examination. As such, eligibility for the examination will be judged comprehensively based on degree of contribution to the organization, performance, attitude toward training, and more. It is wrong to assume that you have the right to take the examination just by fulfilling the Eligibility Requirements.

- Eligibility for the special grading examination requires not only a review of training performance by the branch master and coach, but also consent by the federation if the examinee is a member of one. The Qualification Evaluation Committee at UNITY then comprehensively determines whether the applicant is qualified to take the exam, then the representative director of UNITY (Shike) decides whether or not they may take it.
- Bukai represents the level of mastery of the teachings and techniques of Shorinji Kempo. Hokai represents the level of cultivation and practice of teachings based on the study of Kongo Zen.
- Shorinji Kempo is a path for human development and a martial art originating in Japan. WSKO hopes that, through practicing Shorinji Kempo as a martial art, kenshi will become the people they aim to be. While WSKO branches do not provide instruction on the study and teachings of Kongo Zen as religious instruction, kenshi may be eligible to take the exam for the Hokai rank through self-study.

2. Remarks

- The following cannot be done by national federations or branches.
 - Providing and granting original rankings.
 - Conducting grading examinations before applying for membership to WSKO.
 - Conducting examinations for the following examination after a Kyu or Dan grading examination but before procedures are complete:
- Kyu grading examinations for 8th Kyu to 1st Kyu, Dan grading examinations for 1st Dan to 3rd Dan, special Dan grading examinations for ranks higher than 4th Dan and Seikenshi or higher, referred to collectively as grading examinations.
- Grading examinations fall under the jurisdiction of UNITY. Administrative procedures for federations and branches will be handled by the WSKO Secretariat, which UNITY entrusts to handle all aspects of grading examinations. (Examination applications, results reporting procedures, sending exam notifications, sending Kyu and Dan certificates, fee billing, etc.)
- Regular Group Members (national federations) can conduct grading examinations up to the rank of 3rd Dan. Associate Group Members in countries that are not Regular Group Members can conduct grading examinations up to the rank of 2nd Dan.
- The special grading examination will be held on the examination date set by UNITY (in Japan) or in conjunction with a study session approved by WSKO.
- Taking the grading examination outside your own country is generally prohibited, except in the following cases:
 - Taking the examination at WSKO headquarters (Japan)
 - Taking the examination at a study session that covers an entire region (ex: Europe, Asia, etc.)
- Skipping ranks is permitted in Hokai examinations up to the rank of Seikenshi. (Ex: Junkenshi 1st Dan → 2nd Dan → Chukenshi 3rd Dan)
 Skipping ranks is not permitted for Hokai for ranks of Daikenshi and higher.

3. List of Eligibility Requirements (Issued By: SHORINJI KEMPO UNITY)

Rank to Apply for	Can Kenshi who is not a Branch Master take the exam?	Age Requirements	Required training period after receiving the current rank	No. of Study Sessions after receiving the current rank
8-7 Kyu	Yes	Age 9 and below :Start with 8th Kyu	4 months or longer	* *
6-4 Kyu	Yes	Age 10 and over :Start with 6th Kyu	2 months or longer (Children: 4 months or longer)	* *
3-1 Kyu	Yes	Age 9 and over	2 months or longer (Children: 4 months or longer)	* *
1st Dan	Yes	Age 11 and over	3 months or longer	* *
Junkenshi	Yes	* *	Given at the same time with 1st Dan if attended required study sessions	1 time or more
2nd Dan	Yes	Age 13 and over	1 year or longer	* *
Shokenshi	Yes	* *	Given at the same time with 2nd Dan if attended required study sessions	1 time or more
3rd Dan	Yes	Age 17 and over	1 year or longer	* *
Chukenshi	Yes	* *	Given at the same time with 3rd Dan if attended required study sessions	1 time or more
4th Dan	Yes	Age 20 and over	4 years or longer [Note] Given with the 4th Dan in principle	2 times or more
Seikenshi				
5th Dan	Yes	Age 24 and over	6 years or longer	6 times or more
Daikenshi	Yes	* *	3 years or longer	2 times or more
6th Dan	Yes	Age 35 and over	Applicant with Daikenshi: 10 years or longer	6 times or more
			Applicant without Daikenshi: 15 years or longer	8 times or more
Junhanshi	Yes	* *	6 years or longer	4 times or more
7th Dan	No	Age 45 and over	Applicant with Junhanshi: 12 years or longer	6 times or more
			Applicant without Junhanshi: 17 years or longer	8 times or more
Seihanshi	No	* *	6 years or longer	5 times or more

4. Exam Requirement Details

(1) 7th Dan and Seihanshi

Only branch masters or those in a position to instruct branch masters after being delegated to do so by a WSKO Regular Group Member (a national federation) may take this examination. During eligibility screening, applicants will be judged strictly on their efforts to spread Shorinji Kempo as well as their contributions to the organization.

- Must have trained at least three instructors who can serve as successors.

Note: Depending on the situation, former branch masters with more than ten years of experience and former branch masters who have been replaced by a successor within the past five years will also be considered.

(2) 6th Dan and Higher (Branch Masters Only)

Based on the results of the examination eligibility assessment by the UNITY Qualification Evaluation Committee, an examination eligibility notice will be sent to eligible branch masters either directly or through the federation. Applicants who receive a notification are asked to submit an examination application to the WSKO secretariat.

(3) 4th Dan or Higher

Those who wish to take the exam are asked to fill in the required items on the exam application form and submit it to the WSKO secretariat. Once the application is received, it will be screened by the Qualification Evaluation Committee, who will then notify the applicant of their eligibility to take the examination through the federation or through the branch master.

(4) Starting Bukai Rank Based on Age

- 13 years and older: Considered adult. Please start with the 6th Kyu examination. 6th Kyu to 4th Kyu are green belts, while 3rd Kyu to 1st Kyu are brown belts.
- 12 years and under: Considered children. Kenshi aged 9 or younger will start with the 8th Kyu examination. Kenshi aged 10 or older will start with the 6th Kyu examination.
- Kenshi aged 10 or older may take the 8th Kyu examination if they wish to do so or if there are reasons involving mental or physical development.
- Those 9 years and younger who have passed the 8th Kyu may take the 6th Kyu examination once they have turned 10 years or older.

(5) Number of Study Sessions Required to Take Grading Examinations

Study Session Attendance refers to the number of WSKO Study Sessions or study sessions accredited by WSKO for both Bukai and Hokai ranks.

(From FY2021)

- After obtaining the current rank, the examinee must attend at least the minimum number of study sessions prior to the next grading examination date.
- Up to two sessions are counted when attending multiple study sessions in the same year.
 - Ex: 1 study session hosted in your home country + 1 study session hosted overseas = 2 sessions
 - 2 study sessions hosted in your home country + 2 study sessions hosted overseas = 2 sessions
 - 2 study sessions hosted overseas = 2 sessions
 - 3 study sessions hosted overseas = 2 sessions
- Sessions hosted in the examinee's own country are, as a rule, counted only once, even attending multiple times in one year.
- Those who have not attended a study session hosted or certified by WSKO in many years or who otherwise have an extremely lopsided history of session attendance may not be allowed to taking grading examination.

- Number of Sessions Needed to Attend the Hokai Examination (Daikenshi or Higher)
 - (1) FY2012 and before: Based on the number of WSKO Study Sessions or study sessions certified by WSKO that the examinee has attended.
 - (2) FY2013 to FY2019: Based on the number of UNITY Study Sessions that the examinee has attended. Also, number of UNITY Hokai lectures attended during WSKO/International Study Sessions are also counted as one session needed for Hokai examination. (Attendance at a WSKO/International study session without attending Hokai lecture during the session is not counted for Hokai examinations.)
 - (3) FY2021 and onward: Based on the number of WSKO Study Sessions or study sessions certified by WSKO that the examinee has attended.

(6) Examination Fee

The examination fee is paid to SHORINJI KEMPO UNITY, which presides over Shorinji Kempo qualifications.

WSKO membership classifications A to E apply to the grading examination fees. Billing for examination fees is done in May or November.

(7) Curriculum

Adult Curriculum (13 years old and older)

Features: The 1st Dan examination is positioned as a comprehensive review for kyu kenshi because it focuses on foundation subjects up until the 1st Kyu and has fewer subjects to master. Applied techniques and technique changes are learned starting from 2nd Dan. While part of the Rakan Appo technique has been added to the 5th Dan (mainly pressure attacks to weak points along the midline), this method is not tested until the technical test for special Dan grading examination.

Children's Curriculum (12 years old and younger)

Features: Reverse techniques that may have a negative impact on the growing body have been omitted.

(8) How to take the Hokai Special Grading Examination (Daikenshi, Junhanshi, Seihanshi)

- Oral examinations for special grading conducted in Japan are generally done online.
- The interpreter fee for languages other than the official languages used at WSKO (Japanese and English) is to be paid for by the examinee.
- Home assignments are to be submitted in advance.

(9) Language for the Special Dan Grading Examinations

(Assignment, Written Exam, Technical Exam, Oral Exam)

- In principle, the official languages of WSKO are used. (Japanese or English)
- The official languages of WSKO are, in principle, used as WSKO study sessions as well; when using unofficial languages, the country hosting the study session is asked to provide support for interpretation.

(10) When the Examinee Does Not Wish to obtain Hokai ranks (Junkenshi to Seikenshi)

Examinees are required to inform the examiner when taking the Bukai examination.

(11) Technical Score Sheets

Please ask the WSKO secretariat for a technical score sheet if you need one. (English or Japanese only)

III. Examiner and Judge Qualifications

1. Role

While it is Shike who ascertains training performances and grants ranks, it is the examiner who judges the grading examination during this process. Also, it is the judges who evaluate techniques acquired through training at Shorinji Kempo taikai events. Examiners and judges play an important role, and that is why the following requirements for their certification have been established.

2. Category

Examiner and judge qualifications (hereinafter referred to as examiner qualifications) are categorized into the 1st Class and the 2nd Class.

(1) 1st Class Examiners and Judges

Active members ranked 6th Dan or higher who have taken the designated seminar for examiners and judges. They can evaluate kenshi ranked 3rd Dan or below.

(2) 2nd Class Examiners and Judges

Active members ranked 5th or 4th Dan who have taken the designated seminar for examiners and judges. They can evaluate kenshi ranked 1st Dan or below.

3. Details

(1) Scope of Validity

Examiner qualifications are valid within the country of the federation or branch the qualified examiner belongs to. Examiners may not evaluate grading exams in any country other than the one they belong to unless they have permission to do so from WSKO.

(2) Period of Validity for Qualifications

The period of validity is 4 years across the board. The end of the period of validity is the same for those certified midway through the period.

- Current Period: FY2018 to FY2021 (April 1, 2018 to March 31, 2022)

- Next Period: FY2022 to FY2025 (April 1, 2022 to March 31, 2026)

[NOTE] Examiners are not automatically promoted to a higher class even if they obtained a higher Dan rank during the qualification period.

After obtaining a higher Dan rank, the examiner should attend an examiner and judge seminar once again or go through the designated procedures to be certified as a higher examiner class.

- Ex: If a 5th Dan, 2nd Class examiner obtains 6th Dan rank during the period of validity, he/she can be certified as a 1st Class examiner only if he/she attends the examiner seminar again or go through the designated procedures.

(3) Expenses Required for Qualifications (FY2022-FY2025)

(Unit: JPY)

Fee	A Rank	B Rank	C Rank	D Rank	E Rank
Screening	2,000	1,200	400	200	60
1st Class Certification	11,000	6,600	2,200	1,100	330
2nd Class Certification	8,800	5,280	1,760	880	264
Sleeve Badge	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
1st Class Total	14,100	8,900	3,700	2,400	1,490
2nd Class Total	11,900	7,580	3,260	2,180	1,424

(4) Fee for Certification in case of receiving after the 4-year-term is already started

Applicant pays the amount proportionate to the remaining number of years. The number of months in the remaining number of years is rounded up as one year.

- Ex: 1st Class examiner certification on May 1, 2023

Period of Validity: 3 years (Actual 2 years 11 months shall be counted as one year)

Certification fee (¥11,000 ÷ 4) × 3 = ¥8,250

(5) Billing

An invoice will be issued at any time after passing the evaluation.

- Regular Group Members: SHORINJI KEMPO UNITY will bill the federation. A detailed statement is attached for each branch.

- Associate Group Members: SHORINJI KEMPO UNITY will bill the branch.

(6) Examiner Sleeve Badges

The examiner sleeve badge (see below) will be issued to those who have completed their payment to UNITY.

	1st Class Examiner (6th Dan or higher)
	2nd Class Examiner (5th Dan)
	2nd Class Examiner (4th Dan and 3rd Dan Branch Master)

(7) Certification Method (New Certification and Renewal) Performed using “a” or “b” below.

- Attend an examiner and judge seminar conducted at a WSKO study session to be certified, or
- Go through the document screening designated by UNITY to be certified.

Requirements for "b"

Refer to the “Examiner & Judge seminar (Essentials)” and the Shorinji Kempo Tokuhon, then create a report according to the following guidelines and submit it to the WSKO Secretariat along with the application form.

Notifications on procedures will be issued each term.

An invoice will be issued after certification, so please pay the designated fee.

After your payment has been verified, an examiner’s sleeve badge will be sent to the branch master.

Checking the Report

Whether the content of the report is appropriate for an examiner and judge is checked by the federation for Regular Group Member countries and by the branch master for Associate Group Member countries. If deemed inappropriate, provide instruction or other measures so that the applicant can fix or resubmit it. Branch masters are asked to review their reports carefully.

- Regular Group Members: After the content of the report is verified at the federation, compile all the documents together and submit them to the WSKO Secretariat. Reports cannot be submitted directly from the branch.

- Associate Group Members: After the content of the report is verified by the branch master, compile all the documents together and submit them to the WSKO Secretariat.

Report Format (Current Period, for your reference)

- Written Format: Not specified (word processor, handwritten, etc.)
- Language: Please use one of the following languages so that the report can be reviewed smoothly.
Japanese, English, French, Spanish, Portuguese, German
- Character/Word Count: 1,200 characters for Japanese, 600 words for other languages per topic
- Topics: Both those applying for new certification or those seeking renewal will write about A and B.
- Note: Depending on the content of the report, the applicant may not be certified as an examiner and judge. The topics change each period, so be sure to check the notice for details.

Report Topics

- Will be announced by WSKO as needed.

4. Examiners for Special Grading Examinations

Examiners for Special Grading Examinations are comprised of international or national examiners appointed by SHORINJI KEMPO UNITY. UNITY will appoint examiners each time a special grading examination is conducted outside Japan. Self-recommendations or other recommendations are not accepted for these appointments.

5. Special Measures

(1) 3rd Dan branch masters are eligible for special measures to certify them as 2nd Class Examiners, allowing them to conduct grading examinations up to 1st Dan, by being certified as an examiner and judge.

(2) Refer to the chart below for special measures for 4th Dan branch masters and for 5th Dan branch masters who belong to Regular Group Members (national federations).

(NOTE) The period of validity for these special measures is until March 31, 2023.

		Examinations Certified Examiners Can Conduct		
		1st Dan	2nd Dan	3rd Dan
1	3rd Dan branch masters who have obtained 2nd Class Examiner/Judge qualification	Yes	No	No
2	4th Dan kenshi who have obtained 2nd Class Examiner/Judge qualification	Yes	No	No
3	4th Dan and 5th Dan branch masters of an Associate Group Member who have obtained 2nd Class Examiner/Judge qualification	Yes	Yes	No
4	5th Dan kenshi who have obtained 2nd Class Examiner/Judge qualification	Yes	No	No
5	5th Dan branch masters belonging to a Regular Group Member who have obtained 2nd Class Examiner/Judge qualification	Yes	Yes	Yes
6	6th Dan branch masters or kenshi of an Associate Group Member who have obtained 1st Class Examiner/Judge qualification	Yes	Yes	No
7	6th Dan branch masters or kenshi belonging to a Regular Group Member who have obtained 1st Class Examiner/Judge qualification	Yes	Yes	Yes

B. WSKO Study Session

Up until now (since FY2014), a distinction has been made between WSKO Study Sessions (organized by WSKO) and UNITY Study Sessions (organized by UNITY). In FY2021 onward, the only category of study session will be WSKO Study Sessions.

Starting in FY2021, WSKO Study Sessions will be counted toward "Required Study Sessions and Hokai Seminars", a requirement for Bukai and Hokai examinations.

(Note) UNITY Study Sessions attended in the past will still count toward Bukai and Hokai examinations.

1. Division of Roles in Organizing a Study Session

- Organizer: WSKO, in principle
- Host: Regular Group Member or Associate Group Member in charge of hosting

2. Guidelines for Structuring the Schedule of a Study Session

(1) When conducting grading examinations: 3 days in principle

- Day 1: Written Examination, Physical Examination
Oral Examination
- Day 2 and Day 3
Chinkon-gyo
Technique Practice
Philosophy Lecture (Teachings of Shorinji Kempo): About one or two 40-minute sessions
WSKO Lecture (Intellectual Property Management, Organization Management, etc.): About one 40-minute session
(Note) Examiner and judge seminar will be conducted as needed

(2) When not conducting Dan grading or special Dan grading examinations: Minimum 2 days

- Delete "Day 1" from the agenda in (1) above.

3. Instructors to be Dispatched

Instructors are decided on and dispatched by WSKO. The Host cannot nominate instructors.

(NOTE) Not all study sessions that WSKO instructors participate or teach are WSKO study sessions.

4. Cost Burden

(1) Costs Paid by the Host

- Travel expenses for instructors (economy fare), international travel insurance, accommodations, meals
(Note 1) Accommodations must be paid starting from two nights prior to Day 1 of the study session until the night on the next day of the study session.
(Note 2) The cost of meals must be covered within the scope of accommodation fees.
- Expenses required for running a study session (venue, equipment, etc.)

(2) Costs Paid by WSKO

Domestic transportation and allowance for dispatch instructors

5. Payment of Participation Fee to WSKO by the Host

WSKO registers the attendance record of the participants based on the participants' list submitted by the host and then bills the host participation fee for participants.

- (1) If the host is a Regular Group Member: WSKO will bill the federation. A detailed statement is attached for each branch.
- (2) If the host is an Associate Group Member: WSKO will bill each branch.

Category	Per person
Kenshi in Class A Countries	¥2,000
Kenshi in Class B Countries	¥1,200
Kenshi in Class C Countries	¥400
Kenshi in Class D Countries	¥200
Kenshi in Class E Countries	¥80

6. Participation Fees the Host Can Collect from Participants

The host can collect a participation fee from participants with consideration for the following.

(1) Expenses Borne by the Host

Travel expenses for instructors (economy fare), international travel insurance, accommodations, meals
Expenses required for running a study session (venue, equipment, etc.)

(2) Participation Fee to be paid to WSKO

- (3) Lunch, drinking water, party fees (which can also be collected separately) during the study session may also be included.

(NOTE) After the study session is finished, both Regular and Associate Group Member countries are asked to report their income and expenses to the federation or between branch managers as quickly as possible.

7. Application to Hold a Study Session

- (1) When applying for a permission to hold a study session to be recognized as an official study session (including requests for dispatch instructors), please make an application to WSKO President by the end of October of the previous fiscal year.

- (2) For regions with a membership fee class of D and E, WSKO may organize study sessions and send instructors.

End